



あのとときの常呂・写真館

VOL 149

(1987年)

昭和62年6月 富丘小学校に足形の塔完成

▶富丘小学校では、学校の重点目標の一つ「はっきりする子」の一環として昭和59年5月から「はだしの教育」が始まりました。『富丘小学校開校50周年記念誌 しらかば』には、〈1. 2年生の自発的行動をきっかけに、児童全員がはだして生活するようになった…夏期の5ヶ月間ではあるが毎年実施されており、土踏まずの形成に役立つなど、効果が表れ、風邪を引く児童も少なくなり、健康づくりに一役かっている〉と記しています。

●今回紹介する「足形の塔」は、父母らが建てたもので、右側板に「昭和60. 61年卒業記念 昭和62年6月」の記載があり、2ヶ年度の在校児童22人の足形を形取った素焼きの板が張り付けられています。(『開校50周年記念誌』では同年10月完成) ●この足形の塔は、北海道新聞の「校歌の風景」という特集コラムに取り上げられ、校歌の歌詞とともに「…訪れる人を入り口で最初に出迎えてくれるのは、子どもたちの小さな足をかたどった…〈足形の塔〉…春と秋の年2回、足の裏に絵の具を塗って画用紙に押しつけ、足形として保存している」と綴っています。



*上2枚

足形取りと校内に保存・掲示している足形

*左:「はだしの教育」がはじまった昭和59年の児童



*上4枚は、足形の塔製作作業と完成後の塔、下は校門から見た足形の塔

